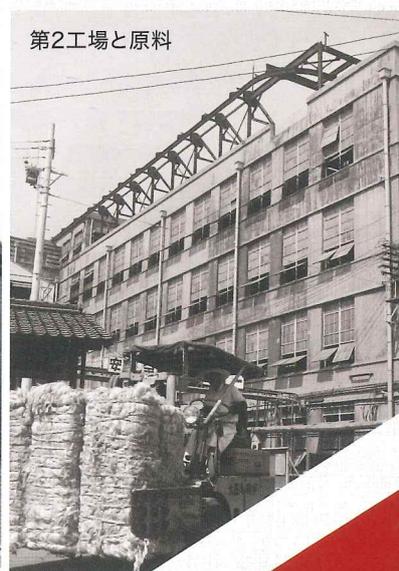


小泉製麻グループの今を読む K TIMES

Vol.009

特別号



第2工場と原料



工場正門前



粗紡機



昭和5年当時 東京事務所と倉庫

SINCE 1890

創業130周年を迎えて

「至誠協和・創意開発」のスピリッツ!

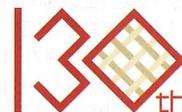
令和2年6月、おかげさまで小泉製麻株式会社は創業130周年を迎えることが出来ました。これまでに私たちの成長を支えていただいたすべての皆さまに厚く御礼を申し上げます。

130周年の幕開けは新型コロナウイルスという社会を揺るがす大きな問題との対峙となりました。全世界の経済活動が停止するような事態は、誰もが予測できなかったことであり、未曾有の危機が迫っていると認識しています。新型コロナウイルスの感染の影響を受けた皆さまには心よりお見舞い申し上げます。

小泉製麻はハイテク企業ではありません。しかしハイテクだけが社会に変化を与えるものとは限りません。「至誠協和・創意開発」のスピリッツで「ローテクで社会にインパクトを与える会社」として、200年企業の礎を築く事を誓い、今後も皆さまにとって、かけがえのない企業を目指して努力してまいります。

小泉製麻株式会社
取締役社長 小泉 康史

紡いで
つなぐ
130周年
KOIZUMISEIMA Since 1890



1890

明治23年

**有限会社都賀浜
麻布会社設立**

英国のサミュエルサミュエル社と京都の小泉糸店の共同出資で有限会社都賀浜麻布会社設立
ジュート紡績工場を建設し麻袋の生産を開始



1918

大正7年

**小泉製麻
株式会社設立**

1930

昭和5年

東京倉庫建設

1931

昭和6年

高級玉糸発売

三越、松屋、松阪屋、高島屋等百貨店の包装括り紐として染色艶出し加工を施した高級玉糸を発売。のちに材料はジュートからポリプロピレンに変わり、「パロン高級玉糸」として販売
ジュート製は今も健在のロングラン製品



1956

昭和31年

**化合織パイル糸
の製造開始**



1963

昭和38年

**化成品の製品名
をパロンに**

1964

昭和39年

滋賀工場竣工



1967

昭和42年

福岡事務所開設

**ジュートバインダー紐発売 /
パロンスクリーン発売**

農家に普及し始めた自動稲刈機。刈り取りだけでなく結束も自動で行えるようになりました。農機具メーカーとの共同開発でジュート糸の結束紐が使用されるようになりました。翌年68年にはPPのバインダー紐も登場。収穫資材のラインナップの始まりです。

1991

平成3年



神戸本社地区の建物の現状の良さを保存しつつ活用する商業施設「六甲ヴァントワ」オープン

1995

平成7年

**阪神淡路大震災により
本社地区の建物など24棟倒壊**



1996

平成8年

ルンルンシート発売

ハウスで鉢花などを育成する際に、雑草が苗床から突き出て花の生育を妨げることが農家の悩みで、作業性もよくありませんでした。そのためにいろいろなシートを床面に敷いて防草対策をしていましたが、耐久性、非吸水性などで決定的なシートがありませんでした。ルンルンシートは防草性、耐久性、非吸水性、及び保温効果に優れ、鉢花生産地で推進したところ、農家のニーズにぴったりと合いました。



モーターバイク「ハーレーダビッドソン」兵庫県正規代理店開業

1997

平成9年

**震災で倒壊した
グランド六甲ビルの再興**

**パロン愛菜発売 /
パロンピーナス発売**

前年のルンルンシートに続いて、施設園芸資材に力を注いで次々と新製品を発売しました。特殊機能を持った織機を使ってパロン愛菜やハウス内張カーテンのピーナスシリーズが登場しました。



パロン愛菜



ピーナス

1998

平成10年

コンバッグ発売

開発の背景には農家のニーズがありました。米麦収穫用資材として、「自立する」しかも「簡単に折りたためる」を実現するため、従来のフレキシブルコンテナにグラスファイバーのポールを組み込みました。ワンタッチテントの発想です。

2000

平成12年

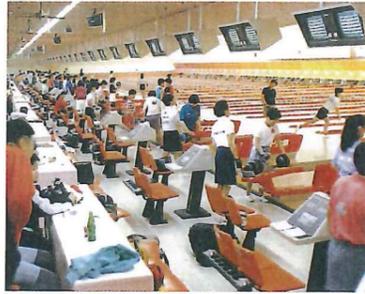


本社地区総合開発事業として「サザンモール六甲B612」オープン

1972

昭和47年

グランド六甲 ボウリングセンター開設



ジュート生産の主力工場は1972年に工場移転促進地域に指定され、他種の製造工場に転換することが困難になりました。全国的にボウリング・ブームであり、新事業による企業発展の一翼にしたいという思いから100レーンのボウリング場を建設。地域の皆さまに愛されるボウリング場となりました。

パロンフゴ発売

コンバイン、バインダーによる稲の収穫作業が普及し、藁が思うように入手できなくなりました。また藁を編む人も減ったため、古くから農家の万能容器として重宝されてきた藁製のフゴが少なくなりました。それに替わるものとしてパロンクロス縫製品を開発しました。



緑化資材誕生



昭和50年代初めごろにジュートの需要が化成品にとって替われ、あらたにジュートの性質を活かす商品開発を目指して、緑化関連資材の開発を開始。樹木の植栽や養生の為の麻縄、幹巻き、麻マット、植生袋、スギテープなどを開発。長男格は緑化麻なわです。

緑化マットが誕生、 マルチング資材の提案

従来のマルチングでは流出や風による飛散などが起こっていました。作業の効率化と環境に配慮したマルチング資材として日本で初めてシートによるマルチングの考えを提案しました。藁にとても近いジュートを用い、地温安定と保水の面で有効でした。時代とともにマルチング材に対する要求も多様化し、現在のラインナップになりました。



1982

昭和57年

黄麻紡績を滋賀工場に集約。 神戸本社地区では第1工場を 利用して商業施設 「六甲パインモール」を開設



ブロー成型の開始

フラットヤーン生産によって培った技術をベースにブロー成型事業に進出。そのころBIBの年間需要量は3000万個といわれ、神戸工場内で双頭型ブロー成型機にてコストダウンと販路拡大を目指しました。1984年には多層ブロー成型機を設置。1987年には滋賀工場に拠点を移しました。

2002

平成12年

KOMA 発売

リサイクルペットを使用した不織布防草シートを発売、現在も改良を重ねラインナップを増やしています。

2003

平成15年

ピュンピュン丸

トマトやナスのハウス栽培では人の手によって成長促進が行われていましたが、受粉作業の軽減と減農薬栽培の推進のためにマルハナバチによる受粉が注目されてきました。イスラエル産マルハナバチの国内での販売元として、トマト・ナスの産地への販売を開始しました。



2010

平成22年

天敵農薬 チリカ・ワーカー® 発売

IPMの先駆け「安心・安全」な生物農薬。減農薬、省力化の軸にした製品です。小害虫であるハダニ類を捕食する「チリカ・ワーカー®」

※IPM (Integrated Pest Management)
総合的に病害虫の防除をすること



2016

平成28年

ルンルンシート 白ピカ発売

フラットヤーンの織物で極細長繊維不織布と同等の高反射性能を実現したシートです。太陽光を反射することで、防草効果だけでなく、収穫UPと遮熱を実現。近畿経済産業局主催の「関西ものづくり新撰2016」に選定されました。

2018

平成30年

べた〜とシート 発売

畔や公園の雑草管理 美観維持シート 農林水産省「官民連携新技術研究開発事業」(平成28年度～平成30年度)採択 「農地畦畔における草刈り“ゼロ化”管理の省力化技術の開発」成果品

2020

令和2年

創立130周年 を迎える

130th

140周年 に向けて

液体容器事業部門

「環境対応製品」の推進

海洋プラスチックゴミ問題に代表されるようにグローバルに「脱プラスチック」の動きが活発になっています。当部門の主力商品であるバロンボックスは全てがプラスチック製品のため、まずは「使用樹脂量を減量化」した「フィルムタイプ」のバロンボックス「スクエアα」「ソフト」と一押し
新商品の「スパウトバッグ」を「環境対応製品」として推進して参ります。

スパウトバッグ



戦略推進事業部門

「存在感のある会社」を目指して

当部門には、国土環境事業部・新規事業推進室・開発マーケティング室が存在します。国土環境事業部は、先人の頑張りにより社内でも有望なユニットとなっています。このユニットを更に発展させるべく、「インフラメンテナンス資材」と「繊維・シート資材」を中心に“存在感のある会社”を目指していきます。
新規事業推進室は、今期より開発マーケティング室より独立し、次世代の市場の開拓と自社商品全般を様々なお客様に発信し、“そうなんだ”をキーワードに様々なパートナーとの懸け橋を設けていきます。
開発マーケティング室は、仕組みから開発することで、“小泉だったんだ”と信頼して頂ける商品開発を進めていきます。

物流資材事業部

数年後の大ヒットを目指して

ここ30年くらい、当事業部はフレキシブルコンテナの販売が中心でした。保管・運搬には効率的で、非常に取り扱いやすいため需要が増え続けています。最近では隔壁付きフレキシブルコンテナ「エムキューブ m^3 」の効率良い保管・運搬を提案しています。今後はフレキシブルコンテナだけではなく、新しい視野で様々な物流商材を開拓していこうと考えています。数年後の大ヒットを目指して…

エムキューブ m^3



アグリ事業部

IPM(総合的病害虫管理)

「いい・プロダクト(製品)を・もっと」

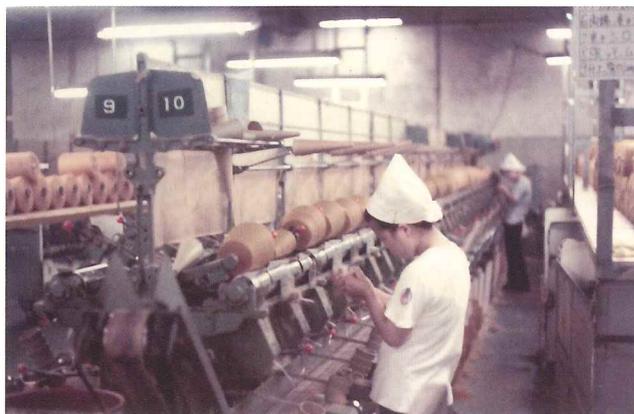
10年後の農業はどうなっているのか? 農業は復活し主役となる産業なのか? それとも高齢化による衰退が進行しているのか? 私たちアグリ事業部に出来ることは安心安全な農作物を消費者に届けるために、「人と環境にやさしく」をテーマに農家の高収益化、労働環境改善・省力化に貢献できる製品を供給していきます!
IPM「いい・プロダクト(製品)を・もっと」を合言葉に未来の農業を応援していきます。

小泉製麻グループはじまりの話 ~VOL.9~

ジュート紡績の工程に近いと着目し生産をはじめていたパイル糸は、昭和36年以降タフテッドカーペットの製造に多くの会社が参入したことにより、需要が急増し、合繊繊維への移行が進みました。また、昭和37年よりポリエチレン、ポリプロピレンのフラットヤーン及び布、袋の製造を開始しました。

昭和40年代に入ると戦前の精紡機は廃棄され、昭和43年には化合繊紡績を拡充するため滋賀工場を増築し、広幅織機を移設しました。

福岡に事業所を開設したのは昭和42年のことでした。



昭和36年 パイルヤーン紡績工程

サザンモール六甲

お客様にとっても働くわたしたちにとっても「かけがえない」空間づくりを

お客様にとっていつも新鮮で安心・安全な商業施設であり続けるため、昨年度から始まっているグランド六甲ビルや、サザンモール六甲B612の長期修繕もお客様が何を望まれているのかを考え、使命感を持って実施していこうと考えています。また、内装や不動産コンサルタントも含め総合的に心地よい空間づくりを行ってまいります。

140周年
に向けて



神戸六甲ボウル

全国有数のスポーツボウリング会場としての地位を築きます

神戸六甲ボウルでは、スポーツボウリングの推進としてプロボウラーはもちろんアマチュアボウラーの大会開催に注力しています。現在も多数のボウリング団体主催大会の会場としてご利用頂いておりますが、140周年に向けては全国有数のスポーツボウリング会場としての地位を築きます。

140周年
に向けて



ハーレーダビッドソン神戸

様々なセグメントにチャレンジしていく10年に

140周年に向けてハーレーダビッドソン神戸では今後様々なセグメントにチャレンジしていく10年になっていきます。これまでのアメリカンバイクを販売するブランド店舗から、電動化、オフロード、ECサイト販売へと多方面に変化していきます。新しいセグメントでの新規顧客の開拓はもちろんのこと、短期的には顧客満足度をより高めることが最重要と考えております。ストロングディーラーを目指して顧客に楽しさを与える姿勢、取り組みを一層強化していきます。

140周年
に向けて



K TIMES Vol. 008 発行元:K TIMES 制作委員会

- 株式会社小泉ビジネスソリューション
- 小泉製麻株式会社
- 株式会社サザンモール六甲
- 株式会社グランド六甲
- 入船株式会社

2020年6月発行

神戸市灘区新在家南町1丁目2番1号 TEL:078-841-4141(代)

小泉製麻グループ